

本藤研究室

【スタッフ】本藤 祐樹（ほんどう ひろき）教授

【大学院担当学府専攻】環境情報学府・人工環境専攻

【研究キーワード】技術評価, システム分析, LCA, 持続可能性, エネルギー・環境政策, 意思決定

【主な居室】総合研究棟 3 階 E301, E303, E304, E306-3

【代表連絡先等】045-339-4365, hondo@ynu.ac.jp, <http://www.hondo.ynu.ac.jp/>

【研究内容】

エネルギー・環境問題の解決に向け、太陽光や洋上風力などの再生可能エネルギー、燃料電池車や電気自動車、スマート住宅・ビルなど、様々な技術が期待されています。新技術の開発を目指すハード研究は重要ですが、社会として、どの技術を選択し、どのように利用するかという**政策指向型のソフト研究**も必要です。本研究室では、持続可能な未来に資するべく、国や自治体のエネルギー・環境政策、企業の技術開発の方針、消費者の省エネ行動のあり方など、各主体の意思決定に寄与する研究を進めています。

本研究室で取り組んでいる研究は、**自然科学と人文社会科学の両分野にまたがる学際的**なものです。工学的な要素が比較的強い研究から、人文社会科学（経済学、心理学、政治学等）の色彩が濃い研究まで、連携して取り組んでいます。

(1) 技術評価グループ

環境保全と社会経済効果の両面から**エネルギー技術の価値**を考える

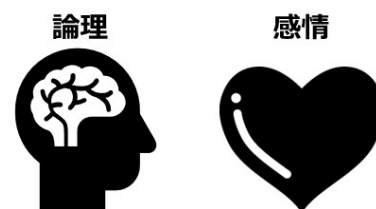
持続可能な社会のためには、温暖化防止などの環境保全と、経済の活性化や雇用の創出など社会経済発展のバランスがとれた技術導入が求められます。技術評価Gでは主に工学と経済学に基づき、再生可能エネルギー技術の導入がもたらす CO₂ 削減効果や地域経済効果を評価し、効果的な技術導入の在り方を提案します。



(2) 心理系グループ

エネルギー環境問題に関する**人々の心理や行動**について考える

新たな技術導入に加えて、人々の意識や行動の変革も不可欠です。心理Gでは主に工学と心理学に基づき、人々の省エネルギー行動やエネルギー政策の受容性に影響を及ぼす要因やメカニズムを分析するとともに、効果的な情報提供のあり方などについて提案します。



【研究室の特徴と主な行事】

- ・ **持続可能な未来に貢献するという志**を持って、エネルギー・環境分野における**大学・研究所での研究職**や**コンサルティング会社などでの専門職**を目指す学生のトレーニングを行います。
- ・ 社会問題としての**環境・エネルギー問題に強い関心**があり、これまでに化学応用 EP で学んだ工学に加え**経済学や心理学などを新たに学ぶ意思**を持っていることが求められます。
- ・ 発表する主な国内学会： エネルギー・資源学会、日本 LCA 学会、日本エネルギー学会
- ・ 週間報告（月曜午前、2 週に 1 回）、ゼミ（金曜午前、毎週）、歓送迎会（3 月）、中間報告会（8 月）、ゼミ合宿（9 月）、他大学との合同ゼミ（9 月）、忘年会（12 月） など

【最近の主な博士・修士・卒業論文の題目】

- ・ 太陽光発電と蓄電池を用いたマイクログリッド導入時の環境・経済・社会分析
- ・ 地熱バイナリー発電が地域に与える社会経済効果
- ・ 施設園芸への再生可能エネルギー導入による CO₂ 削減効果の推計
- ・ 再生可能エネルギー政策の受容性向上にむけた「物語」の活用
- ・ 擬人化されたキャラクターが環境配慮行動に働くメカニズムの分析 など（詳細は HP を確認願います）

【個別説明会】本研究室を希望する方は、**対面の個別説明会に必ず参加**してください。**HP** で開催日時を連絡しますので、「個別説明会参加希望」として希望日時とともに **Email を送付**願います。